

我らの聖書観

萬田 二雄

聖 テモテ後書三章二一―二七節
句 マタイ伝七章二四―二七節

A 序

- 1 聖書とクリスチャン信仰とは不可分である。
- 2 聖書はクリスチャン信仰の基礎である。クリスチャン信仰は、理解・経験・生涯を含むものである。
- 3 一般建造物と同じく、若し土台(基礎)が堅牢でなかったら全建造物は不確定である。同じように聖書に対する信仰があいまいであるならば、或は聖書そのものがあてにならないものであるならば、我らのクリスチャン信仰は不確定なものとなる。
- 4 参照JPC出版の「何故聖書信仰は必要か」の12―14ページ、拙著小論A―Cの中で、聖書信仰がなければ、
 - A、信仰と確信の全根拠を喪失し
 - B、道徳的、倫理的基礎を失ってしまい
 - C、我らは現代に対するメッセージを持ち合わせないことになる

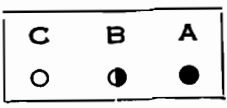
と指摘しておいたのを参照して頂きたい。

5 奇怪な事実

- しかし多くのクリスチャンと称える者で、聖書を斯く信じない人々がいる。これはあたかも
 - ①自らのクリスチャン信仰には基礎がない。または
 - ②自らのクリスチャン信仰の基礎は不確かである(信頼できない)と言ふ者の如くで、矛盾であり
 - ③恐らく彼らは自らの言っている所を弁えて居ない。そうでないとすると
 - ④彼らは△クリスチャン信仰を知らないとともに
 - △まだ信仰を持っていなかろう。
- 6 斯く聖書信仰(正しい聖書観)の問題は、確実なクリスチャン信仰
クリスチャン経験
クリスチャン生涯
クリスチャン希望
クリスチャン希望
- にとって生命的な重要さと繋がりをもって居る。而して

B 我らの聖書観

- ここで何故「我らの」聖書観という言葉を用いなければならないかに触れておこう。同じ聖書を持って居りながら、聖書観に相違があり、これを大きく三つに分けて考えることができる。
- A 全面否定――聖書には神学的、超自然的な要素がないとする立場
 - B 混合的――聖書にはある部分は神学的要素を含み、他の部分はふつうの書であるとする立場(部分的)
 - C もう一つの見方は、(時間的)に言って、聖書のある部分が読む者に感動を与える時に神の言となり、そうでない時には神の言でないとする立場である
- 全面肯定の立場「我らの立場」――聖書は客観的に、我がが感じようが感じ



(後述C項参照)

(付)保存・保全の事実

- ・ 原典なし、ただし
 - ・ 原典を確かめ得る――資料
 - 4 斯くして聖書は我ら(信仰者)の信仰と生活の基準であり、最高裁判所の役割を果たすものである。
- (以上、JPC、JEAの信仰箇条参照)

C 充全靈感に就て

- 1 聖書の充全(十全) 靈感の問題は我らの聖書観の鍵である(B項1、2、4参照)
 - 2 靈感の定義と解説
 - ①否定的には、ここでの靈感は
 - ・ 啓示 (Revelation) 神が伝達された事柄、内容[靈感は伝達の形式、方法]
 - ・ 照明 (Illumination) 外側から聖言に光が照り添えられること
 - ・ 解明 (Enlightenment) 内側から意義と解釈の理解が与えられること
 - ・ 又は一般に考えられる人間的(天才的)な感動や閃きや刺激と異なる。
- ②肯定的には、それは神が聖書記者を(聖書の記述に於て)凡ての過誤から守る為に与え給う超自然的な助力である。
- ☆此の事に関して次の諸項にふれる。

7 此の「聖書観」、殊に我らの聖書観に就いて語るのが今宵の任務である。

①クリスト者として特にCS教師としての一切の学びや奉仕に先行すべき科目・問題であるが

②(時間の制約の為)ホンの序論的・基本的要点的梗概的講述に止める。

☆参考――諸靈感説対示表

正	否
a 部分的靈感 对 十全靈感 ↓程度 (Partial Insp) (Plenary Insp)	
b 思想靈感 对 逐語靈感 ↓内容 (Thought I.) (Verbal I.)	
c 機械靈感 对 動力靈感 ↓形式 (Mechanical I.) (Dynamic I.)	又は有機靈感 (Organic I.)

C 靈感と関連する諸題目に就て

- 1 經典(又は正典 Canon)
 - 以上のような神の靈感によって記された書のこと、旧約Ⅱ三九卷、新約Ⅱ二七卷、計六六卷を經典と呼ぶ。
 - 經外典(アポクリファ)――旧約一四、新

- ・ まいが全面的に神の言である。
- * * *
- 1 聖書は神の言である。
- 2 それ故聖書は
 - ・ 無謬である。これを表わすために二つの英語 "Infallible" (誤り得ないもの)と "Inerrant" (誤りが無いもの)が用いられている。
 - ・ 従って権威をおびており、訂正や付加の必要がない。
- 3 神の靈感(感動とも訳す) (Inspiration) によるものである。聖書は人間が記したのであるが(記者)著者なる神の感動、助けが加えられ、神が書かせようと思っておられた事を誤りなく、神が書かせようとなされたように過不足なく記させたもつたのである。この神の感動的干渉は
 - ・ 充全 (Full, Plenary) であり、開歎的なものではなかった。
 - ・ 逐語的 (Verbal)、すなわち一語々々に神の靈感が加えられたもので、神が思想家(記者)たちに与えて表現は彼らに委せたという思想靈感を否定する。
 - ・ 動力的 (Dynamic) 有機的 (Organic)、すなわち人間的な要素を少しも無視することなく、神が誤りなくその御旨を記させたもつたのであって、機械的な靈感ではない。

約一五——はこれに入らない。

*これを加えようとする聖書再改訳の計画があり(旧教、新教合同で)

*注意を要する。

2 啓示

イ、定義：人間の常識では理解し得ない神と贖罪に関する真理の神による伝達をいう
ロ、思考すべき題目として、啓示の可能性・蓋然性・歴史性等を挙げることができ
る。

ハ、啓示の種類としては

① 一般的啓示——自然(界)

人間

② 特殊啓示——聖書

キリスト

(信仰)

③ 保存(保全、preservation)の問題——これは摂理の奇跡としか言えない。

☆思考項目

イ、聖書記者の数四〇人以上

ロ、完成の為の長期間——一六〇〇年

ハ、執筆者(記者)間の各面の相違

年代——場所——職業・地位——教養——個性等

ニ、長期に亘る人間歴史の変遷(特にユダヤ人歴史の変動)

学術的(批評学的)には

a、原典とその喪失

b、諸写本

c、諸訳本

d、併行的諸文献(タルグーム、タルム

ード、サマリタン・ペンタテニューク

等)

e、是らを資料とする聖書批評学

{ 本文批評
高等批評

D 補足

イ、福音主義(Evangicalis)について

定義・沿革

R・カトリック

プロテスタント

自由主義(主に)

福音主義(聖書に対す

保守主義)る態度

日本に於ける福音主義陣営とIGM

JEA JPC

JEFM A

ハ、IGM及JPC印刷物に於ける聖書信仰

に関する参考論説資料表

(一九四七—七〇年、葛田によるもの

み、IGMの他の筆者のものも多くあり)

昭45・教師講習会・講義

「聖書の学び方」(A)

岩城幸策

はじめに

詩篇十九篇は神の言をうたう詩であります。この篇は二つに分ける事が出来ます。

一、六節 自然界に於ける太陽の位置

七、十四節 霊界に於ける神の言の位置

そして、神の言の位置は丁度太陽が自然界に於て中心であるように、霊界に於て中心であると記されております。それ

故、聖言を学ぶ私共は、聖言を最高とする心の姿勢を持つ事が、まず大切なので

す。

聖書の学び方の法則(ルール)

さて、アリウスは私は「聖書的である」と主張しつつ、いっしょに脱線して

いったといわれます。聖書の学び方には法則(ルール)があって、それは、キリス

ト中心に聖書を理解する事なのです。

I、「教会学校」誌

④ 信仰主義

聖書の理解

聖書と偕に

聖書と取り組め

聖書と我ら

JPCと全国記念

運動(聖書の必要性)

⑤ 時代の問題

日本教界一九五七

年の課題(1)——(3)

JPCの運動と主

張の基盤

宣言の年・春の話

一九五三年 七月

一九五四年 二月

一九五八年 七月

一九六〇年 二月

一九六五年 一月

一九六九年 七月

一九五六年 一月

一九五七年 三月

五月

一九五八年 一月

五月

一九五九年 五月

II、教報

④ 聖書の手引

聖書の靈感

⑤ 聖と宣

昔乍らの福音

JPC趣意書

JPC大会の月

エホバはまで

一九四七年 八月

一九五〇年 七月

一九五二年 九月

一九五六年 四月

一九五八年 一月

一九五九年 一月

一九五九年 一月

III、伝道新聞

④ 聖書に対する心得一九四九年 六月

聖書は神の御言、人間に対する神の御意の啓示であります。聖書は最高の書であり、唯一、絶対の書であります。それ故、熱心、忠実、忍耐、継続的な研究が必要なのです。

満洲に居りました時、平信徒であり、社会的にも大人物であるクリスチャンが

いました。彼は牧師をしのご聖言の知識を持ち模範的な人物であったのです。

聖言を学ぶ為には聖書を全体的に見る事が大切です。その為には、

(1) 継続的な研究

(2) 組織的な研究

(3) 敬虔な研究

等が必要であります。あてずっぽな聖書の開き方では、神の深い御意を知る事は出来ません。聖書は自分にとって何であるかを思いつつ、又、祈りつつ学ばねば

なりません。

基督教と聖書	一九五一年	七月
聖書はみな	一九五三年	六月
聖書をよめ	一九五四年	一月
聖書に基づきて	一九六〇年	二月
IV、其他(JPC系)		
・「現代と聖書信仰」(一三〇—一三九頁)——聖書信仰と日本伝道		
・「なぜ聖書信仰は必要か」(九—一六頁)——なぜ聖書信仰は必要か		
・JPC月報		
④ 聖書信仰の直面する課題	一九六三年	八月
クリスチャン信		
仰と聖書信仰	一九六五年	六月
聖書信仰と現代に於け		
る宣教の問題	一九六九年	八月、九月
⑤ JPCの目標について	一九六二年	五月
聖書信仰運動の		
力点を論ず	一九六四年	二月
JPC・バイブ		
ル・サンデー	一九六四年	一月

更に、時間と能力の許す限り、徹底的に学ぶ重要性を知らねばなりません。その為には、

(1)よく読む事

(2)聖言を暗記する事

(3)分析的に学ぶ事

であります。

さき程の信徒から私は聖書を学ぶ事を教えられました。そして、聖書の味が分つてくると楽しいものであります。

ムーデー著「楽しい聖書の学び方」はこの為の良い参考書として推薦できます。是非御一読下さい。

聖書の特徴

さて、ここで船橋教会発行の「宣教」誌に連載中の、グリフィス・トーマスによる、「聖書の研究法」にしたがって、聖書の特徴を学ばせて頂きたいと思えます。

聖書全体には三つの特徴があります。それは、聖書の多様性、一致性、調和性という事です。

(1)聖書の多様性

多様性とは、多くの事柄が含まれていて、一つの目的の為に書いたもののようにあります。

例えば、更に詳しく見てみると、まず聖書全体から見る創世記、又、創世記と他のモーセの五巻との関係、そして、創世記とヨハネ黙示録とのこと、創世記初めの一―二章と黙示録の終りの一―二章には「罪」が不在であることなど。聖書はあなたも一人の人が一つの考えをもって、一つの目的の為に書いたもののようにあります。

結局、聖書の中心は「キリスト」なのです。キリストが聖書を解く鍵であります。この点をとらえると、聖書の読み方は容易となります。

ロバート・リー著「輪郭的聖書」
ホッジキン著「六十六巻のキリスト」
等を味読されるようお勧め致します。

(3)聖書の調和つり合い

四福音書は、イエス様の言行録であるといえます。同じような事が少しづつ違って書かれています。それらは互いに補足し合っている為、全体をつり合わせる一つになるわけでありませぬ。

遠くに居る友人の写真があるとしても、一人の写真だから、一枚あればよいようですが、いろいろなポーズが撮られ

る事を意味するのですが、まさに聖書は多くの事を含んでいます。歴史あり、神学あり、哲学、詩、勧告あり、又、奨励予言等があります。聖書中の哲学は、厳密な意味では存在しません。何故ならば、哲学とは、物事の究極をきわめるものであり、その究極は即ち神であるから神からの啓示である聖書に哲学はないと云えるのです。

題目が多様であると共に、記者も多様であります。聖書全巻六十六冊を、三十五―六名の記者が記しています。

又、記述された背景、状況も多様であります。千五百―千六百年間に亘って記されたのであります。

内容も大きく分けますと、旧約三十九冊、新約二十七冊となります。旧約はキリスト来臨前に記され、新約はキリスト来臨後に記されたものであります。

言語も分類すると、ヘブル語、ギリシヤ語、アラマイツク語(エズラ書とダニエル書の一部)等が用いられています。

然し、このように多様な聖書の著者は聖霊であつて、書かれた形態は、先に述べた様に、律法、歴史、詩、予言、哲学

教理、信条等なのであります。

斯く、聖書は分析して学ぶ事が出来ません。然し、分析しすぎて誤つ事もありませぬので注意せねばなりません。丁度、鰻を料理する為に分解するが、その為に本来の姿を失う様に、聖書も分解しすぎて誤つ事があるのです。その時、活人剣であるべき聖書が殺人剣となります。信用のおける参考書に基づいて、聖書全体を学ぶ事が大切であります。又、参考書にも良否がありますので、牧師のアドバイスが大切であります。

ダイヤモンドは多くの面をもつので、夜でも光を放つとかいわれますが、聖書もその多様性の故に、あらゆる時に光を放つのです。

(2)聖書の一致性

グリフィス・トーマスは、更に、次の様に言っております。

「聖書は、多様性をもちつつ、尚、一致した一つのものである。旧約聖書は長い期間の国家的産物であり、新約聖書は短い期間に成つたものである。旧約は新約の為に、新約は旧約の為に存在する。互いに補足し合つて、神を紹介する」と。

ています。何十枚もありますが、全部あわせて、初めて一人の人物の全部を見る事が出来るのです。

このように、旧新約聖書は互いにつり

49・冬期・教師講習会記録

聖書の学び方(B)

竿代忠

引照聖句―テモテ後書三章全体

テモテ後書は、殉教直前にあるパウロから愛する弟子テモテに送られた書である。ここには、三つの知るべきことが記されている。即ち時代(1節)と模範者(10、11節)と聖書(15節)である。

序・聖書を学ばんとする願望

聖書を学ばんとする意欲は、どこから来るのであろうか。それは強制や義務感からではなく、次のようなものから来る。

(1) 模範者(14節)
テモテには、祖母ロイス・母ユニケ・使徒パウロ等の良き模範者があつた。我らも先生方の模範を通して聖書の美味しさを教えられ聖書を読みたくつたのである。

(2) 神御自身(詩119の74)

合いがあり、それらを、更に見る事が出来るれば幸いでありませぬが、次回に回させて頂きます。

救われてクリスチャンになると我らは神の子となり、聖書を天の父からのお手紙として愛して読めるようになる。聖書を学ぶ意欲を持つためには、明確な霊的経験を持つことが大切である。

(3) 学びの雰囲気
○時―自分の状態が一番良い時に、規則的に読むことが大切である。

○所―折り聖書を読む静かな場所を工夫して持つ。聖書を開いたままにしておける場所があると良い。

○環境―聖書を数多く持ち、色々な場所に置いておくとうまいである。聖書をごへでも持ち歩く習慣をつけよ。

1 知的把握(頭を使って読む)

キリスト教がそうであるように、聖書の学

びにも

- ▽知識 (head)
- ▽経 験 (heart)
- ▽実 践 (hand)

の三つが平均して必要である。

△横なりの学び▽

聖書の学びは最初に大づかみにし、次第に
微細にして行き、興味・知恵・工夫を持ちな
がら読むと良い。

1 書名を覚えよ

聖書の各書の名前と共に、分類を覚えてお
くと良い。

- ▽旧約聖書——律法(5巻)・歴史(12)・
詩歌(5)・大預言(5)・小預言(12)
- ▽新約聖書——歴史(5巻)

書簡(21巻) ▮パウロ書簡(13)

公同書簡(8)

預言(1巻)

2 各書の主題を覚えよ

例えば

- ホセア—神の誠実とイスラエルの不誠実
- ヨエル—大蝗(エホバの日)
- アモス—社会的正義

- オバデヤ—エドムの審判
- ヨナ—ニネベ滅亡の延期
- ミカ—北イスラエル・南ユダの滅亡と回復

3 章数を覚えよ

- 最長の章の書は?
- 最短の章の書は?
- 聖書の数と同じ章の書は?
- 28章ある書は何と何?
- ヨハネ伝は21章、ヨハネ黙示録は22章。
- 16章あるのは、ロマ書とコリント前書。

4 各書の大分解を覚えよ

- 創世記 { 12 | 11 | 50 | 11 } 全人類の歴史
 { 12 | 11 | 50 | 11 } 選民の歴史
- 出エジプト記 { 20 | 1 | 40 | 19 } 歴史
 { 20 | 1 | 40 | 19 } 律法
- レビ記 { 11 | 1 | 27 | 10 } Way to God
 { 11 | 1 | 27 | 10 } Walk with God
- 民数記略 { 1 | 1 | 13 } 前進(シナイ—カデシ)
 { 14 | 1 | 20 } 放浪
 { 21 | 1 | 36 } 前進
 (カデシ—モアブの野)
- 申命記 { 1 | 1 | 4 } 過去
 { 5 | 1 | 26 } 現在
 { 27 | 1 | 34 } 未来

5 各章の内容を覚えよ

各章に自分で題をつけるように努めよ。そ
うすれば自然に注意深く聖書を読むよにな
る。例えば、

- ヨハネ伝一章—ロゴス
- ヨハネ伝二章—カナの婚宴
- ヨハネ伝三章—ニコデモ

III 実践的把握

聖書の教えを、我らの具体生活に生かすこ
とが大切である。

- (1) 聖書の教える実業
- (2) 聖書の教える家庭
- (3) 聖書の教える育児
- (4) 聖書の教える金銭
- (5) 聖書の教える知恵
- (6) 聖書の教える時間
- (7) 聖書の教える衣服

「己の如く、なんぢの隣を愛すべし」
「得る者は之を失ひ、失う者はこれを得べ
し」

「不信者と軛を同じうするな」
「妻たる者よ、夫に従え。夫たる者よ、妻
を愛せよ」

「子をその道に従いて教えよ、然ばその老
たる時も之を離れじ」
「鞭を加えざる者はその子を憎むなり」

「心のうちの隠れたる人、すなわち柔和、
恬静なる霊の朽ちぬ物を飾とすべし」

- 5 この章はキリストについて何を教えるか
- 4 この章の中心人物は誰か。
- 3 この章の最上(鍵)の節は何か。
- 2 この章のおもな教訓は何か。
- 1 この章の中心的題目は何か。

II 心靈的把握(心で読む)

聖書を正しく理解するためには、教・聖化・
服従など神との正しい関係に立つことを前提
として読むことが大切である。そして

- (1) 折り返し—聖書を開く前に、また読んだ後
に折る者となれ。
- (2) 信仰と期待を以て—神の前に信仰の態度を
持って読め。
- (3) 服従の心で—神を愛する心と神を畏れる敬
虔な心を持って読め。

読むように心がけよう。

グレイス・サククス氏は、各章に関して次
の10の質問をするように勧告している。

- 1 この章の中心的題目は何か。
- 2 この章のおもな教訓は何か。
- 3 この章の最上(鍵)の節は何か。
- 4 この章の中心人物は誰か。
- 5 この章はキリストについて何を教えるか

- ヨハネ伝四章—サマリヤの女
- ヨハネ伝五章—ベテスダの池
- ヨハネ伝六章—生命のパン
- ヨハネ伝七章—活ける水の川
- ヨハネ伝八章—姦淫の女

△横なりの学び▽

○人物—一人の人物を取上げ、聖書全体
から学んでみる。例えば

- ・ロマ書のアブラハムとヤコブ書のアブラ
ハムを比較してみる。
- ・ルツとエステルの類似点・相違点を調べ
てみる。

○地名—カナン地名や人名を聖書全体
から調べてみる。

○神 様—聖書の各巻に神様がどんな面か
ら描かれているか。例えば

- ・ホセア書の神は愛の神、アモス書の神は
正義の神。
- ・イザヤ書は子なる神、エレミヤ記は父な
る神、エゼキエル書は聖霊なる神が主に
描かれている。

○罪—罪について聖書全巻から学んでみる
例えば、

- ・ホセア書の罪—神の愛に背くこと。
- ・アモス書の罪—正義の法則を破ること。
- その他教い、クリスチャンなど……

(8) 聖書の教える言葉

結・聖書の学びのゴール

は、イエス様のようになることである。その
方向に導かない学びは、正しい読み方ではな
い。我らは御言により、「諸般の善き業に備
を全うした神の人」(提后三の一七)となら
う。